

# ちばしや通信

Vol.19



画 くさびら八郎

## 【トピック】

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| ♪ 「寄り添うケアのはじまり」  | ♪ つれづれなるままに   |
| ♪ 「心地よい関係性のバランス」 | ♪ 各種イベント案内    |
| ♪ 私の子育て奮闘記       | ♪ “ときがね”なひととき |
| ♪ 起業・就労・支援の間で…   | ♪ 法人からのお知らせ   |

## 寄り添うケアのはじまり

『車いすで帰ってきたミチコさん』

「島に帰りたい」ミチコさんは言われました。そして「島に帰ってきてほしい」と御本人以上に娘さんたちはそのことを願っておられました。しかし、帰りたい、帰ってきてほしいと思ってもそんな簡単に車でちよつとという場所ではありません。そのみんなの心の中にある島は『宝島』。鹿児島市から南に約330キロ。フェリーで片道13時間かけてやっと辿り着くのが宝島です。週2便しか運航しないそのフェリーは海が時化るともちろん出航できません。すると、人も動けない、食べ物も届かない状況になります。人口100人余り。ファミレスもコンビニも居酒屋も病院も警察署もありません。信号も無いです。トカラ列島の有人島では南端の島で、隆起したサンゴ礁でできたハート形をした島



です。その名のとおり、昔イギリスの海賊、キャプテンキッドが財宝を隠したという言い伝えがある鍾乳洞もあります。

ないないづくしの島の暮しは不便なこともありますが生まれ育った地域、住み慣れた島には馴染みの人達がいいます。宝島には人の温もり、大切なつながりがあるからこそミチコさんは「帰りたい」と思うし、ご家族は「帰ってきてほしい」と思うのです。

ミチコさんは、その時82歳

でした。子宝島出身で要介護2。脳梗塞後遺症・糖尿病・高血圧症があります。平成16年鹿児島市内の病院に入院、リハビリ治療をしていました。その後、

同じく市内の老健施設に入所され、リハビリ継続を行っていましたが、血糖値が高値となり平成20年7月血糖値コントロールの為、中央病院へ入院されました。その後、中央病院系列の老健施設に入所。その老健施設の入所が長期になり平成21年4月同市内の別老健施設に転所。その後、その施設でこれまで過ごされました。島を離れて5年以上、病院や施設で過ごしてこられました。

老健からは、2年近く入所していることから退所を進められていて、行く先を探していたところでもありました。身寄りとしては、小宝島在住の長男と次女、宝島在住の長女の3人。長女さんが、私達の小規模多機能ホームたからのスタッフでもあ

りました。やつと宝島にも介護事業所ができたのだからこれ以上、他の施設に行くんじゃないかと宝島に戻ってきてませんか？とお伝えしました。

しかし、長く病院や施設で過ごされ、そして病気もあり車いすで日常生活を送っておられる方が、島に帰るにはたくさん課題や不安がありました。役場の保健師さんからは、車いすであり、糖尿病を患っており、島の生活環境も整わないことから、島での生活は無理ではないかと言われました。老健施設の方からも大変でしょうから一旦いかれてすぐに帰ってこられても良いですよと言われました。島民の皆さんも「介護が必要な宿泊者を受け入れるのは無理だろう」と心配してくださいました。

## 『ストレングスの視点』

とにかく要介護状態の方を島で受け入れることが是代未聞なことであり、誰しも未経験なことばかりでした。できないこと、

やりにくい要素だけに目を向けると島民の方々の不安や役場・施設の方々のおつしやることは当然のことだったと思います。ミチコさんの「帰りたい」という気持ちをもどのようにすれば実現できるかをみんなで考えました。

できないことを考えると「やっぱり島には戻ることはできないね」と捉えがちだが、限られた資源の中で、できないことを並べるのではなく、できるものに視点を向けること、あるものをどのように活用できるかを考えることも離島に限らずどんな場所でも必要な視点ではないかと学びました。

『実践でどんどん変わる』

### ①家族と老健施設との調整

これまで家族だけで施設の方々とお話をされていましたが、私達が立ち会い、島へ帰る日時の決定や準備、もし島での生活が出来なかった時の鹿児島市内の施設の受け入れの確認や

調整を行いました。ご家族の不安も少しずつ解消されていったように思われました。

### ②事業所にて受け入れ

当然、電動ベットなどは有りませんし、購入できませんでしたので鹿児島本土のホームセンターでパイプベッドを購入し宝島に送りました。そして、パイプ椅子を荷造りひもでベッドに括り付け手すり代わりにしました。当時は、住民センターの一室をお借りして事業を行っていたので専用トイレもありませんでした。役場の出張員さんが倉庫を整理して手すりもつけてくださり、個室のミチコさん専用のトイレを、準備してくださいました。お風呂もありませんでした。そのことを自治会長に相談をしました。すると、自治会長は島内にある唯一の共同温泉でミチコさん専用時間を設けてくださり、そのことを住民放送で皆さんに告知してくださったのです。それまで公共の場は全員で使うもの、特別扱いを嫌い、

例外を許さない地域でしたが、ミチコさんの為にルールを変更してくれたのです。一方で特別な配慮をしたことに不愉快な思いをしている住民の方もいました。しかし、その方に対して、「みんなで理解し助け合わないとミチコさんは風呂に入れられない」と諭す場面もみられました。

『私達の思い込み???』

私達は、ミチコさんに関わる中で自分達がどれだけ「思い込み」に縛られていたか気づかされました。ミチコさんはわがままではないし、すごく穏やかな性格でした。また不機嫌になってトラブルを起こすこともありません。失禁もありません。「ビンの岩のりを一気に食べてしまおう」なんてこともありません。施設での情報で私達はすっかり思い込みを作ってミチコさんを見てしまっていたのです。

ミチコさんが小規模多機能

ホームだから来られ、沢山の人が来られるようになりました。海で扱った魚をミチコさん持ってきてくれる方もいました。また一緒に食事をする為に来てくれる方もいました。隣の小宝島からも娘さん、お孫さんやひ孫さんもやってきました。まさにミチコさんが、人と人をつなぐ役になりました。そして、車いすで帰ってきたミチコさんは入院でも療養でもない、車いすに乗って、地域での普通の暮らしを始めたのです。

黒岩尚文（くろいわなおふみ）

高校卒業時、お金が全く無くて進路指導の先生から「消防士がいい」と言われ喜んで受験。しかし見事不合格。気を取り直し当時最も学費の安い福岡大学商学部を受験。まぐれで合格。お好み焼きを4年間焼き続け卒業。卒業後、東京の不動産会社に入社。2ヶ月で鹿児島弁しか使えないことを見抜かれ福岡支店に流される。1年後、フリーの不動産屋となり東京へ戻る。多くの方々にご飯を食べさせて貰いなんとか生きていたがある朝、突然、顔面神経麻痺になり帰鹿。リハビリの甲斐あってか、無かったか1年程かかって今の顔。平成7年4月より福祉の仕事につく。翌年5月より宅老所活動を始める。平成19年6月加治木町で共生ホームよかあんべという小さな小さな事業所を開設。細々とやっています。平成22年5月よりトカラ列島宝島、北海道幌加内町にも関わる。



## 心地よい関係性のバランス

第7回「がんばる」と「がんばらない」との間にあるもの

先日テレビを見ていたら不思議な人が出ていた。月曜から金曜まではサラリーマンで、土日は歌手をしているという。しかも、子どもが小さいので、歌手の仕事は土曜か日曜のどちらかで、もう一方は家族との時間に出すのは夢でした。でも、今後このことを考えるとサラリーマンも辞めたくないのです、このスタイルで：」というようなことを、淡々と話している。今の時代、それほどめずらしい話ではないのかもしれないが、私は何かひどいカルチャーショックを覚えた。自分が旧世代の人間のような気分になった。

私の世代的感覚では、どこか夢に向かっているいろいろなものを犠牲にするということが当たり前のようなところがある（ちな

みに私は、高度経済成長の真只中に幼少期を過ごし、バブルの絶頂期に社会人となった世代の人間だ）。仕事のためなら家族を犠牲にするとか、演劇のためなら、どんなきついバイトも耐えられるとか。いろいろなものを捨てて、大切なものを勝ち取っていく。ふつうにそう思い込んで生きてきた。

だから、福祉施設に勤めた時も、勤務時間や公休日があつてないようなものでも、それが当たり前だと思っていた。私は役者ではなく福祉労働者を選んだのだ。役者が演劇のためにいろいろなものを犠牲にするように、利用者のために自分の時間を削ることは当たり前だと思っていたし、そうやって自分の時間を削ることで、利用者との関係に確かな満足感が生まれるのも事実だった。

その延長で24時間365日困ったら駆けつけるサポートセンターぴっころを立ち上げた。ここまでがんばるのは当たり前だ。一方で、ここまでがんばれば十分だと思っていた。もっとがんばるべきだったのだろうか：

ぴっころをスタートして3年目に私は結婚することになった。その時、あるご家族の方、冗談めかしの本気の顔で「ずっと、独身で、私たちの子どものために生きてくれる人だと思っていたので、ちよつとびっくりしました」と言われたのだ。この言葉は私に、ものすごい衝撃を与えた。

たぶん私には、その言葉が「裏切られた」と聞こえたのだ。「24時間365日、一生を犠牲にしてくれるんじゃないか？」と。24時間365日では足りなかったのだ。もっとがんばるべきだったのだろうか？

人を支える仕事というのは、

本当にとらえどころがない。時には、昼夜を問わない家族のような濃厚な愛情だけが救いとなるかと思えば、もっと関係性を考えたクールなつき合いこそが自立の道につながることもある。自分の自由な時間を切り刻んで、多くの利用者が幸せになることだけが自分の幸せだ、と思えるような人間になることを目指して生きていた時期もあった。自分を切り刻んで寄り添えば寄り添うほど、あなたなしでは生きられない。利用者が増えることに怯えた時期もあった。がんばればいつてもものじゃないのかな…。がんばりが足りないのかな…。いつもゆらいでいた。

相手のことを自分のことのように大事に考えるという生き方ができるということは、すばらしいことだと思う。しかし、家庭をもてば必ずしも仕事を優先できないこともある。二者択一のような考えが自分を追い詰めるのであれば、どちらも捨てな

い方法を考えることだって大切だ。

だからと言って、世の中すべての福祉労働者が、労働時間を1分だって越えて働かないような時代になることがすばらしいと、言いたいわけでもない。「自分の時間もとても大切」でも「あなたのことも大切に思っている」こんな人間的で常識的な感覚で、時間外に駆けつけたり、時間外は断ったりできたらどんなにすばらしいだろう。

がんばりすぎない、がんばらなすぎない、してあげすぎない、つきはなしすぎない、この適切なバランスポイントは、結局のところ、深い自己理解と深い利用者理解からしか、はじき出すことができないのだと思う。すなわち、どれだけ利用者ときちんと関係をつくるかということだ。結論は、たいていこうなる。私たちの仕事の本質なのかもしれない。

※この原稿は、Juntos（フントス）CLC発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

### 大友愛美（おおともよしみ）

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニケーションワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場（学校や研修）での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれないな...と感じている今日この頃です。

『びっこ流

ともに暮らすためのレッスン』

（1,600円＋税 絶賛販売中）

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



### 私の子育て奮闘記

「障害」という言葉から考えたこと

長男の1年生生活も中盤を過ぎ、いろんなことが落ち着いて来たころ。学校に用事があり、放課後に行くと、2年生の女の子が声をかけてきた。

「あ、リヨウマくん（仮名）のお母さん、リヨウマくんって、しょうがいがあるって聞いたんですけど、なんのしょうがいなんですか？」正直とつてもびつくりした。入学前から学校の先生とのやり取りでは、「障害があつて...」とやり取りをしていたが、子どもたちとかかわるときは、そんな話をしたこともないし、違う学年の子から、そんな言葉が発せられるなんて、想像もしていなかったのだ。

実は私は、仕事で福祉分野の広報を担当した時期があり、その時期から、「障害」という言葉が、好きではなかった。だから、人に伝える場面では、いろんな表現に変えようとしたのだけれど、なかなかうまくいかず、やっぱり使っていた。親になってみるとますます、「障害ってなんだ？」と考えてしまい、言葉の枠が、なんだか不自然な感じがしていた。「発達障害っていつてね、発達があつくりだったり、みん

なができることが少しできなかったりするんだ。それからリヨウマの場合はおしゃべりが、まだ、みんなとできないんだ。でも、みんなが遊んでくれたり、助けてくれたりするから、少しずつ変わってきているよ。ありがとう。」という感じのことをいって、その場でお別れしたのだが、そんな答え方でよかったのか、また、どう答えればよかったのか、家に帰ってずっと考えていた。考えてもどれが正しかったかなんて、なかなかわからなかった。

でも、その時に気づいたことがある。一般的な「障害」という言葉は浸透しているけれど、今日質問してくれた女の子のように、これからイメージを持つ子もいる。そういう時に、発達障害というイメージが、「ああ、○○くんのような感じかな。こうやってコミュニケーションとれば、いいんだよね」等と経験として知っていてもらえていたら、障害が身近なものになるのではないかなと。

大人の一言によって、イメージはよくも悪くもなる。これから先もいろんな子に聞かれるかもしれない。より自然に、より身近に感じてもらえるように、聞かれたときにどうこたえるか、頭の片隅で考えておきたいなと思った出来事だった。

（おとめ）

## 起業・就労・支援の間で…

「大事なこと・優先すべきこと」はなんですか？

今年のゴールデンウィークは最大で10連休！という方もいらっしゃると思います。お天気が良かった日も多く、お出かけ日和の連休となりましたが、みなさんはどうお過ごしになりましたでしょうか。

弊社で運営する2事業所（地域作業所 hana・Natural Café+Shop hanahaco）は、ゴールデンウィーク中も通常営業、むしろいつも以上に忙しい1週間でした。特にカフェである hanahaco は多くの人が休みになるゴールデンウィークは1年の中でもっとも多くのお客様がご来店され、カフェで働く障がいのある方たちにも活気で満ち溢れていたのが印象的でした。

地域作業所 hana も hanahaco も土日祝日も運営（開

をしなければならぬ様々な理由が事業所ごとにあると思います。その時にぜひ考えて頂きたいのが、何を最優先させるかということ。障がいのある方の賃金なのか、支援員の待遇なのか、運営体制のことなのか…。もちろん、どれかをな

所）しているとお話しすると、驚かれることがしばしばあるのですが、逆に私は驚かれることに違和感を感じることが少なくありません。前号も書きましたが、就労継続支援B型事業所に通所される障がいのある方の平均賃金（工賃）は非常に低い水準にあります。それを少しでも上げたいと思えば、特にサービス業を展開している事業所では、より売上が見込める日や時期に営業することは必須です。ところが、hanahaco と同じように飲食店を展開する事業所でも「土日祝日は定休日」というのをよく見かけます。せっかく同じサービス提供をするのだから、平日を定休日にして土日祝日は営業したらいいのにもったいないな…といつも思っています。

もちろん、土日祝日にお休み

いがしろにして良いというわけではなく、あくまで何を最優先させるのかを事業所内で良く議論し、そのうえで、それ以外の事柄もうまく両立させていけるような方法を考え出すことはできると思っています。実際、hanahaco では土日祝日は平日の2倍以上の売上が出るともあるわけで、障がいのある方の賃金を本気で上げたいと思えば思うほど、営業日の見直しは必要ではないかなと考えています。

最後に、hanahaco のイベントのご案内です。暖かくなってきました！そして、季節になりました！そして、暖かくなつて hanahaco の敷

地でもホタルが飛び始めました！そこで、木更津の地ビールSONGBIRDの5種類のビールを試飲しながら、生演奏BGMを楽しみつつ、運がよければホタルが観られるかも！というイベントを開催します。生演奏BGMを楽しみながら、クラフトビールをみんなで味わいましょう！みなさまのご参加お待ちしております！

## Natural Café+Shop hanahaco

日時：5月28日（土）18:00～20:00（17:30開場）  
場所：千葉県木更津市矢那 1879-1  
参加費：1000円～2500円（※詳細はお問い合わせください）  
申込：電話（0438-38-4368）かメール（info@npocw.net）で事前予約をお願いします。  
ご注意：天候などの状況で、ホタルが観れない場合もございますので、ご了承ください。  
（<https://www.facebook.com/events/484435138412660/>）





きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
<p>着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。</p> <p>開催日：6月13日（月） 6月27日（月）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 鶴嶺の家（50 - 0285）</p>	<p>健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？</p> <p>旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。</p> <p>開催日：6月1日（水） 6月15日（水）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50 - 0362）</p>	<p>介護している方々が集まって日々の苦勞話等を気軽に本音で話し合う会です。</p> <p>開催日時：6月9日（木） 13:30～15:30</p> <p>会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代） 主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)</p>

## ときがね・街かど福祉塾

「ときがね・街かど福祉塾」は、東金・山武地域の市民や福祉・介護・子育て・まちづくり関係など、人に関わる活動や仕事をしている人たちの学習の場、思いの共有の場、新たな縁（えにし）の場づくりとして実施しています。

東日本大震災以降中断していたものを、昨年10月より、月1回ペースで実施しています。ぜひ、ご参加ください。

対象：興味のある方ならどなたでも  
定員：30名

（問合せ先：ちば地域生活支援舎  
Tel:0475-53-3630）



### 《第9回》

「子どもを取り巻く問題と支援について  
～児童養護を中心に～（仮題）」

日時：平成28年5月24日（火）  
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室  
講師：社会福祉法人野の花の家

花崎みさを（理事長・統括施設長）

### 《第10回》

「よりそいホットラインから見えてきた  
生活困窮者とは…支援とは…（仮称）」

日時：平成28年6月14日（火）  
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室  
講師：桐谷陽子・石井陽子

（よりそいホットライン・  
コーディネーター）

### 《第11回》

「生活困窮者の支援を考える  
司法と福祉の連携から（仮題）」

日時：平成28年7月12日（火）  
18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室  
講師：常岡久寿雄

（弁護士・たすく法律事務所）



# ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

鴉嶺の家で土日営業が始まり、1ヶ月が経過しました。

平日ものんびりまったりしている鴉嶺の家ですが、土日はそれ以上にのんびりしており、利用者の方一人ひとりに関われる時間が増えています。今月号はそんな土日のお話です。

4月のある土曜日20代の女性のご利用にられました。スタッフは若い女性が2人と男性の私…。最初は、人との関わりについてや自分の性格について話をしていました。ですが、女

性が多いので話は自然とガールズトークになり、いつの間にか恋愛についてのお話になりました。（居づらかった笑）それぞれのタイプを話したり、聞いたり、とても楽しそうに盛り上がっていました。

その翌日曜日には、利用者さん3名とスタッフ3名でペットシヨップや熱帯魚売り場に行きました。『ワンちゃん可愛い』と、スタッフと会話をされたり、犬を見てニコツと笑ってくれる方がいました。これからも笑顔が溢れる鴉嶺でいきたいですね。段々暑くなってきた季節。体調管理をしっかりと、そろそろ海へでも行きたいですね！！

## 鴉嶺の家（児童）

新年度に入り、益々と春の暖かさを感じるようになりました。晴れて暖かい日が続く近頃は、公園へ出かける機会も増え、子ども達も太陽の下、元氣いっぱい遊んでいます。午前と午後、どちらも公園へ行つたその後も

室内ではしゃぐことの出来る、体力有り余る子ども達です。公園でたくさん走り回ったり、遊具で遊んだりしているはずなのですが、改めて子ども達の体力には驚かされます。

冬の間、寒さを嫌がり室内で過ごすことが多かったYちゃんもブランコをこぐジェスチャーでスタッフを誘い出し、大好きなブランコで楽しそうに遊んでいました。車イスに乗ってお散歩へ行くH君やC君にとつては、ブランケットや防寒アイテムが必須でしたが、当分の間は必要なく外出を楽しむことが出来ますね♪

また先日は、八鶴湖近くの公園へ皆で行ってきました。桜並木に沿い、お散歩をしながら春を感じ、とても心地の良いものでした。それでも子ども達は花より団子のように、さくら祭りの出店の方が気になっているようでした（笑）

## 子ども支援センターぽけっと

緑が鮮やかな季節になりましたね。先月に引き続き、近くの公園へ遊びに行くと誰からともなく（スタッフ?!）四葉のクローバー探しが始まります。「4枚の葉っぱ」というのは、現物を見せたり、一緒に数えたり、比較的孩子も達にも分かりやすいのですが、『幸せ』というのは、見せることも出来ず、どう伝えたいのだろうと、言葉に詰まってしまうました。そんな中、先日M君とスタッフのやりとりを見ていてヒントをもらったような気がします。大好きな男性スタッフと久しぶりに会ったところ、笑顔になり背中に飛び乗ったり、膝の上に座ったり、『嬉しい』を体全体で伝えていました。また、大好きな女性スタッフが小さい子ども達と触れ合っているのを見ていて怒り出したところ、そのスタッフが「どうしたの？私もM君が大好きよ。」と言って両肩に手

を置き笑いかけると、安心したようにM君も体を揺らしながら笑顔になりました。

自分の気持ちを受け入れてもらったり、共感し合ったり、そんな心の充実感も幸せという事なのかな？子ども達には日々幸せな思いを感じていて欲しいですね。

### サポートセンタースプリッツ

この仕事をしていると「見極め」と「バランス」が必要だなと感じることが多々あります。「どこまで自分で出来るのだろう」、「今は出来ていないけどいざ出来るかもしれないから見守ろう」、「これは自分で出来ることを甘えてやらないだけだな」など、色々考えさせられます。そこでその方との「距離感」や「バランス」を考えながら関わるように心がけています。もちろん体調により、出来ないことや出来ることの違いもありますし、信頼関係を築けているかいないかという問題、そもそも

相性が合わない等、色々あります。その中で「見極め」と「バランス」を考え、色々な人からお話を伺い、ヘルパー間でも話をし、その人にとって何がいいことなのかを考えながら支援していきたいと思えます。

### 街かど福祉相談室ると

年度替わりで慌ただしかった4月から少し落ち着きつつある5月を迎えました。周囲の喧騒もそうですが、身体の調子を崩している方も多かったのではないのでしょうか。新緑の季節は人も体にパワーが湧いてくるような気がします。パワーがあるとさえば子ども達！公園で元気に駆け回っているのを見ると自分が子どもの頃を思い出します。あの頃はやがてこの世から不幸せな人がいなくなる、今はその途中なんだと思っていました。ある程度大人になってからそれは難しいことだと気付きましたが、4月は何かとバタバタしました

が、皆様の周りでは変化はございましたか？今年度に入り、学校の雰囲気にも馴染めず行くのが遠のいている、入院することになった、今まで利用していた福祉サービス以外のところも試しているなど、何かありましたらご連絡ください。よろしくお願ひします。

### ハンドワーク

#### ◆生活介護

今年度よりハンドワークでは、「生活介護」を始めました。現在利用者は2名。それでも、利用者さんに合った日中活動の提供をしていきたいと思っております。今月は母の日ギフトの封入作業を行いました。今後は、公共の交通機関を利用して外出してみたり、楽しく調理実習をしてみたり、ふれあいセンター（ショップ）に飾るため、絵や飾り物の作成などに取り組んでいきたいと思っております。



#### ◆就労継続支援B型

日差しが段々と暖かくなり、少しずつ過ごしやすい日が増えてきた今日この頃、みなさんいかがお過ごしでしょうか？

ハンドワークでは、新しい利用者さん1人をお迎えしての新年度のスタートとなりました。新しい環境、新しい人間関係の中、恐る恐るといった表情でやってくる利用者さんが、ご本人のペースで落ち着いて作業ができるよう、馴染みややすい雰囲気を作ればと思っております。ご本人にとっての好きな事、嫌いな事、得意な事、苦手な事、などなど少しずつでも知っていく、これからの活動に生かして

いけたらと考えています。



あじき

4月と言えば桜の季節。私たちの住む東金には八鶴湖という素敵な名前の桜の名所があります。お花見と言えば『八鶴湖』と地元民は口をそろえて言うのではないのでしょうか。そんな八鶴湖のお花見はシャッター街と化した東金駅前旧道沿いをほんのり賑わせる数少ない季節イベントなのです。

東金駅旧道沿いに店を構えるあじきにもこの時期ばかりは春が訪れます。普段は人の少ない通りが、少しずつ活気づくこの時

期を逃してはならぬと喫茶でランチDayを土日に営業しました。実は普段ランチメニューはなく、ドリンクのみの営業をしています。しかし今後はランチも提供したいと考えていて、その練習も兼ねての臨時営業です。今年3年目のランチDayで接客方法も確立されてきて、皆の動きも段々良くなっているのが分かります。喫茶としてはまだまだな所はありますが、一歩ずつ進んでいけたらと思えます。

### 五根の家

◆小規模多機能ホーム  
段々と新緑が深まり、過ごしやすい季節になってきました。4月の始めにお年寄りと一緒に桜のお花見の機会が沢山ありました。

ある日、数人のお年寄りとお花見は咲いたかな?!」と話題になりドライブに出掛けました。まだ3分咲き位で「まだまだだね

、あと1週間位かな?」と会話しながら何カ所か回ってききました。途中、お店によって飲み物を買って皆さんで飲みました。「五根の家で留守番をしている）みんなには内緒にしようね」「うん、うん」と会話をすると口に指を当てて「し」という仕事をされるお年寄りもいました。その場にいたお年寄りの間では『内緒』という言葉に少しいたずらっ子のような雰囲気、童心に戻ったような笑顔をされていました。

その後、1週間後には満開の桜となり、約10日間位に渡り、毎日数人ずつお花見外出をされ、今年も全員お花見に出かけることが出来ました。お花見外出を通じて、普段とは違ったお年寄りの仕事や表情を見ることが出来てとてもよかったです。

◆グループホーム  
新年度が始まって1ヶ月が過ぎ、春から新緑の季節となりま

した。その間、入居者の1人とお別れがあったり、新たな入居者を迎えたりしました。

最近、日常の中で嬉しく感じるのはAさんとの挨拶の場面です。Aさんは毎朝、お茶汲みにリビングに来られますが、スナップより「おはようございます」と挨拶をすると、「今日もよろしく願います」と笑顔で返事をされ、「今日は何があるのかな?!」と新聞をご覧になったりします。熊本地震があった時は「九州で地震か、大変だね。とても心配だね。」と固唾をのみながらテレビや新聞をご覧になっていました。

また、Aさんはスタッフが夜勤の時は、「いつも遅くまで大変だね。お疲れさま!」とスナップに対してねぎらいの言葉を掛けて下さいます。時々、スナップにお茶をいれても下さいます。

何気ない日常の挨拶を通じて、お年寄りにも日々起こる様々な出来事に関心を持って過



ごされていると感じたり、スタッフもお年寄りに支えてもらっているんだと実感しています。

地域福祉情報・相談センターりんく

営業：午前10時～午後8時  
場所：東金ショッピングセン

ター「サンピア」内1階  
(ステージコート脇)

内容：福祉、介護、子育て、

ボランティア・市民活動  
に関する情報提供、相談  
★福祉・介護・子育て等に  
関する情報の掲示・配布  
をご希望の方は、本会ま  
でご相談ください。

詳しくは、総務・企画課まで  
ご連絡ください。

(0475533630)

法人事務局

当法人では、平成28年5月より、東金市の委託を受け「東金市生活困窮者自立相談支援事業」の業務を開始しました。

この事業は、仕事や暮らし等に困っている人の相談を受けて、どのような支援が必要かを相談者と一緒に考え、具体的な支援プランを作成し、寄り添いながら自立に向けた支援を行うものです。これまでの事業同様、よろしくお願いいたします。

## スタッフ募集

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方、一緒に働きませんか？

日数・時間・曜日・内容（介護・保育・支援・食事づくり・清掃など）・年齢等ご相談に乗りません。

興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475533630)

## ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身につけたスキル、体力等、自分らしさを生かしたボランティア活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475533630)

## 編集者のつぶやき

熊本地震が発生して約1ヶ月が過ぎた。各種支援が、被災地に入っているが、余震も続いておりまだまだ予断を許さない状況だ。お世話になっている方の事業所も被災しており、役立つ支援をしたいところだが、立場上なかなかできない。被災地支援は、見極めと行動、バランスが重要であることを、経験から学んでいるからだ。でも物事のバランスは難しい(jerry)

新年度に切り替わりあっという間に月日が過ぎていきますね。年々利用者さんと過ごす時間が増え、季節ごとの行事と一緒に出来るのがとても嬉しく感じます。今年度もどんな経験が出来るのかとても楽しみです。(W)



ちばしゃ通信  
(Vol.19)

発行日：2016年5月19日  
発行元：ちば地域生活支援舎  
編集責任者：宮下・太齋  
連絡先：0475-53-3630